

Contents

特集：秋の政治情勢を語る	1p
<今週のThe Economistから>	
“Trapped by the bubble” 「バブルのわな」	6p
<From the Editor> 「10月は御用心」	7p

特集：秋の政治情勢を語る

自民党総裁選と民主党代表選が終わり、永田町は組閣と役員人事の季節を迎えている。自自公の政策協議も始まっている。結果はいずれ報道されるわけだが、この間のプロセスが面白いし、関心の集まる場所。溜池交差点付近が活況を呈する季節ともいえる。

今週(9/27～)、永田町の事情に詳しい関係者と数回のディスカッションや取材を実施した。以下はそれらを元にして構成した架空座談会である。この秋以後の国内政治動向を予測する上で、いろいろな材料を集めてある。参考にお役立ていただきたい。

登場人物紹介

- (新) = 全国紙政治部記者
- (学) = 若手政治学者
- (官) = 若手官僚
- (ジャ) = 政治ジャーナリスト
- (秘) = 自民党のベテラン秘書
- (溜) = 司会：筆者

2つの党首選

(溜)最初に、自民党総裁選と民主党代表選の結果から話を始めましょうか。

(ジャ)両方併せて6人の候補が出たわけだけど、なんとも頼りない顔ぶれだよ。山藤章二が「顔面力が足りない」とうまいこと言ってたよ。政策的に右から順に並べたら、山拓、鳩山、小淵、加藤、菅、横路となるんだろうけど、あんまり違いが分からないという感じ。

(官)みんな小粒だね。この中から21世紀の総理を選んでいくのかと考えると、日本は本当に大丈夫かと思うね。

(秘)奇妙なことに、自民党は戦った3人ともが結果に満足している。「勝ってうれしい」人と、「負けても自慢できる」人、それに「ほっとできる負け方だった」人だ。

(新)加藤なんか議員票が15人分流れてきたんで感激していたからね。「誰が造反したのか、調べればすぐ分かる」と小淵派は怒っていたけど。

(ジャ)小泉純一郎の一派がYKKとしての義理を果たしたんだろう。喜ぶほどの話じゃないよ。

(秘)いや、小泉は自自公に賛成しているという話だ。15票の内訳は、橋本、梶山などの大物票が流れたという見方がある。それと、やっぱり自自公に対する批判票だろう。選挙区で公明党を敵に回している自民党議員は多いからね。

(ジャ)民主党代表選だが、鳩山にはガッカリしたね。いきなり憲法改正と言い出したから、あわや横路=菅連合ができそうになってしまった。自分の党の支持者がどう

いう考えなのか分かってないんじゃないか。(学)憲法論議をいきなり9条から始めたというのが筋が悪い。日本国憲法は50年間変えていないから、環境権もプライバシー権も入っていない。全部13条の「幸福追求権」に含めてごまかしている。新しくできる憲法調査会で議論して欲しいな。

(新)いや、民主党内には、鳩山があの路線を打ち出したから助かったという議員も多いらしいよ。地方の小選挙区で自自公を敵に回すときは、こっちも保守でないと都合が悪いらしい。

(溜)今回の結果を見ると、菅さんが予想外に健闘した印象がありますね。

(新)純粹に党内力学からいったら、旧社民党系の票が集まって横路の方が上に行くはずなんだ。ま、一種の八百長だね。「菅代表をあんまり気の毒な目に合わせると、みすみす党の看板を失ってしまう。菅人氣は落ちたけど、次の選挙でもまだ使いたい」という思惑が働いて、横路票が菅に流れたようだ。

(ジャ)民主党の党内人事も、結局、誰が勝ったのだから分からないようなことになっている。だいたい鳩山、菅、横路に羽田幹事長を合わせた4人は普段からとても仲がいい。選挙の後はみんなで維新号で一緒に飯を食ったが、初めから「勝った人のオゴリ」と決めてたんだそうだ。

(秘)こういっては何だが、自民党は政策論争ということで本が2冊できた。まあ、山拓の本なんかはずいぶんいい加減だけど。それに比べると民主党の議論は、ちょっと底が浅かった印象がある。

揺れる自民党と経世会

(溜)次に今後の自民党がどうなるかについて。とくに小渕派の動向が気になります。(新)加藤派の処遇がいろんな意味で大きな意味を持つと思う。だいたい彼が総裁選に出たこと自体が意外なことで、禅譲を待ってれば良かったという人は少なくない。加藤派の内部でも、主戦派は若手が多くて、ベテラン勢には慎重論が強かった。

(秘)加藤という人は、「政治オンチ」といわれる親分を担いで、若い頃から宏池会を代表して梶山、小渕といった海千山千の相手をしてきたからね。それだけ小渕派の怖さをよく知っているということだと思ふよ。

(溜)そこをもう少し具体的に。

(秘)つまり、小渕派=経世会というのは、「総理は誰でもいい」という独特の感覚を持っているわけですよ。それは田中派時代以来の伝統で、担ぐ相手は鈴木善幸でも海部俊樹でも何でもいいわけ。まして小渕派はご存知の通り、後継者が育っていないからポスト小渕は他所の派閥を担ぐしかない。だから次は加藤を総理にすればいいか、くらいに考えている。せっかく総理になっても、そんなんじゃ自分は嫌だと加藤さんは考えたんでしょ。

(新)経世会というのは、常に権力を握っていない集団ですからね。鉄の結束といいますが、権力の座を落ちた瞬間に、バラバラになってしまう危険性を秘めている。

(溜)なぜそうなるんでしょう。

(新)小渕派のパワーの秘訣は、実は参議院にあるんですよ。これは田中派以来の伝統で、

1992年に経世会から羽田=小渕派が分裂したときも、参議院議員はほとんどが小渕派に残ったという経緯がある。参議院というのは、選挙区は各県代表だし、比例代表は各種団体を代表して出てくるでしょう。そういう議員にとっては、権力の中枢に近いことが大切なんですよ。

(学)その指摘はとても面白いと思いますね。昔から「田中派は総合病院」という言い方があって、この派閥にいればどんなことでも実現するのが売り。権力を目指すから派閥ができて、派閥を守るためには権力を握っていないなければならない。

(ジャ)まあ、自民党全体がそういう体質を持っているわけだけどね。

(溜)加藤派が独り立ちした、というご指摘ですが、そうなると小渕派は次は誰を担ぐことになるのでしょうか。

(新)いろんなカードがありますよ。小渕派として、加藤カードは切りにくくなったわけだけど、まずは森カードがある。幹事長留任はそういうわけでしょう。それから意外に思われるかもしれないけど、河野カードがある。沖縄サミットがあるから大物外相が必要だ、だから河野外相だといってますけど、これは「次の総理は河野かもしれないぞ」というシグナルを送って、加藤派に対する嫌がらせをしているわけ。

(ジャ)小沢カードはないんですか？

(新)小沢を呼び戻すんですか？ うーん、それはちょっとワイルドカードになるかも。

(秘)小渕政権が思い切り長く続く可能性だってありますよ。だんだん佐藤政権に似てきたという評価だってありますし。「人事の佐藤」ならぬ「人事の小渕」が見物だ。

解散・総選挙と自自公連立

(溜) そうなると気になるのは解散・総選挙の時期ですが。¹

(ジャ) 解散は意外と近いかもしれないよ。野中が辞めて青木官房長官が決まった時点で雰囲気が変わってきた。そんな軽量級の官房長官だったら、今度の内閣は短命なんじゃないかという読みが働いている。

(新) 11月23日に解散して12月5日に総選挙、という説がある。ただし臨時国会の開催は11月にずれ込む模様で、そこで2次補正と来年度予算の年内編成をやろうとすると、日程的にはキツイ。そこで**来年1月、通常国会の冒頭解散、2月総選挙**というのがありそうだ。1990年、海部内閣のパターンだ。

(学) 2月選挙だと、予算編成に支障をきたすんじゃないですか？ 暫定予算になると景気への悪影響が心配されますが。

(新) 自自公ががっちりスクラムを組めば大丈夫。現に今年だって、予算は史上最速で通過してる。

(ジャ) 私なら12月26日の総選挙をお勧めするね。政党助成金は、毎年1月1日時点の政党に対して支払われるんだけど、年末に選挙をして大敗すれば、民主党は5人単位の小党に分裂してバラバラになるよ。

(学) うーん、それだけ年末だと、投票率が心配だな。それに2000年問題も気になってくるし……

(新) 次の選挙はいろんな意味で重要な選択になるでしょう。結果次第では政界再編の可能性もある。

(学) 自自公は評判が悪いんですが、これは長続きする可能性があると思います。仮説なんですけど、**今の政治は「96年体制」**になっているんじゃないか。つまり93年に細川内閣ができて、55年体制はつぶれた。その後はしばらく試行錯誤が続いたけど、96年に村山から橋本内閣への禅譲が行われてからは、**自民党を中心に小さな政党が連立を組むという形で、安定的に政権が維持されている**連立相手を「社さ」から「自公」に変えて、自民党政権は延命するのではないかと。自民党も少数政党も、とにかく政権の座についていたいから。

(官) うーん、**政治がそんな状態じゃ、思い切ったことは何も決められないな。**

(秘) なにしる参議院がありますからね。自民党は98年の参院選で大敗してますから、参院で単独過半数を得ることは、少なくとも2004年までは不可能なんです。そうすると当分は自自公でいくしかない。

(ジャ) 自民党の新体制もよくできている。まず小沢の受けが悪い野中が官邸から引込む。それで幹事長代理になって公明党とのパイプ役を務める。自由党とのパイプは亀井政調会長に任せればいい。**今までとは逆に、官邸よりも党本部が指令塔になる**んじゃないか。

(溜) 自自公の政策協議はどうでしょう。

(秘) 議員定数だ、福祉財源だとかいってモメてるけど、実はたいしたことないんじゃないかという見方もあるんです。むしろ**臨時国会の開幕をわざと遅らせるために、時間をかけているの**かもしれない。

(新) 問題は自自公連立政権が、解散・総選挙に耐えるかどうかでしょう。私は自民党が勝てるとは思わないんだけど……

¹ 本誌9月10日号では「2000年7月のサミット後か、任期満了後の9月」と予測した。

臨時国会の焦点

(溜) さて、秋の臨時国会は何が焦点となるのでしょうか。

(官) ベンチャー支援と中小企業対策がテーマだといわれているけど、本当に必要なのか疑問だね。ホッネは選挙対策の出血サービスという気がして仕方がない。相続税減税の話があるけど、これなんて中小企業経営者の受け狙いという感じだし。

(新) とりあえず補正予算はちゃんと通すでしょう。市場では7~8.5兆円というのが一般的な読みだが、亀井政調会長の鶴の一声で10兆円を超えるという見方もある。²

(ジャ) 福祉財源の議論次第では、消費税の福祉財源化という問題が浮上するかも。

(学) サラリーマンとしては、社会保険料を大幅値下げしてくれるのなら、消費税率を上げてもいいんだけどな。それに今年度末には国債発行額が、国と地方合わせて60兆円程度になる。そろそろ財政の問題に注目しなきゃ駄目ですよ。

(ジャ) それから未確認情報だが、野中が「臨時国会では皇室改革がテーマになる」と言っていたそう。11月12日には天皇在位10周年記念式典があるし。

(学) 皇室典範に女帝の規定を加えるとか？ 急ぐ話ではなさそうだけど。

² 大和SBCM「円債プロファイル」9月20日号では、以下のように予測している。

- ・ 公共事業：3.5~4.0兆円
 - ・ 産業再生 / 中小企業対策：1兆円
 - ・ 雇用対策：0.5兆円
 - ・ 国債整理基金繰入れ：2~3兆円
- < 2次補正合計7.0~8.5兆円 >

(溜) 今度の臨時国会からは、政府委員制度が廃止されますね。これの影響はどうですか。

(新) 新しく総括政務次官ができて、国会答弁を担当します。政府委員は同席できませんが、発言はできません。ただしメモを渡すのは可。

(官) 国会答弁はわれわれが想定問答を作るわけですけど、皆さんが思っているほど詳細なものではないんです。だからある程度は出たところ勝負になると思いますよ。

(ジャ) 実力のない議員が大臣や政務次官になるとエライことになるね。これからは大臣になりたくない議員が増えるかも。

(溜) 事務方としては、今までとどう変わりますか。

(官) 今までは前日に質問取りをやって、夜に答弁を作成して、当日の朝にレクチャーしていました。今後は1日前までに質問を集めるといってますが、基本から説明しなきゃならないから苦勞すると思いますよ。

(新) それから予算委員会が面白くなります。党首同士のクエスチョンタイムができて、国家の基本問題を討議しますから。英国議会流にディベートをやるわけです。

(溜) 小淵対鳩山の論戦があるわけですね。

(秘) そういえば、鳩山さんが代表に当選したんで、官邸に挨拶に行ったそう。そしたら小淵総理が「予算委員会ではちゃんと事前に僕に質問をくれるんだろう？」と言ったとか。

(ジャ) 分かっててトボけているんだろうけど、あいかわらず食えないおっさんだな。

(溜) どうやら結論が出たようですね。本日はどうもありがとうございました。

<今週の“The Economist”から>

“Trapped by the bubble” September 25th “Cover Story”
「バブルのわな」(p15-16)

***長年の愛読者として1点だけ指摘しておこう。”The Economist”が米国の高株価への警鐘を鳴らし始めたのは、ダウがまた000ドル台だった1996年からである。**

<要約>

98年4月に本誌が米国経済を「バブル」と断じてからも、警告を無視した人が多い。ダウは更に上がり、経済は成長を謳歌し、消費者物価率は33年ぶりの低さ。お楽しみ中を申し訳ないが、ますますバブルっぽい。G7とIMF世銀総会が開催中だが、ウォール街の崩壊が世界経済最大の脅威であることに変わりはない。

これが金融バブルだとする見方に3通りの批判がある。第一に高い株価はファンダメンタルズの改善で説明できるとするもの。しかし過去数年の株価上昇は、市場が正しくないことを示している。歴史をひも解けば、市場は行き過ぎるしバブルはある程度持続することが分かる。そしてバブルが大きくなれば、はじけた方も大きくなることも。現時点で株価が過大評価されているかどうかを知るすべはないが、民間部門の資金借入れはGDPの5%にも膨れあがっている。経常収支もGDP比4%の記録的赤字に向かっている。

第二に、株価が高くても連銀は恐れることはないとする意見がある。だが米国の低インフレはドル高、海外の低成長、一次産品安などによるもので、これらは逆転しつつある。また中央銀行は株や土地などの資産インフレを警戒すべきである。資産効果は借入れを刺激し、ハードランディングをもたらすことがある。IMFは最近の経済見通しで、従来型のインフレ指標だけにこだわるべきでないと主張している。

グリーンスパン議長は96年12月から、株価を「不合理な熱狂」と警戒してきた。しかしここが第三の批判なのだが、中央銀行がバブルを破壊するのは危険過ぎる。もし利上げして株価を下げたら、たいへんな批判を浴びることになるだろう。

しかし不作為の理由にはならない。たとえばイングランド銀行は住宅価格上昇を避けるために、利上げを実施している。経済が過熱しているのに金融を引き締めないのは危険である。去年の金融危機の際には3度の利下げを実施したが、金融市場が安定化してからも戻していない。こうした非対称的な行為はモラルハザードを招く。

バブルの罠にはまった連銀は、できることは限られている。米国経済は減速しそうにない。株価が下がらないなら、利上げして容認しない姿勢を示すべきである。何もしなければ、株価はいつかは下がり、インフレとドル安を招くだろう。幸い世界経済は去年より健全な状態にある。日欧の当局は、米国経済に不調が生じたらすばやく行動すべきである。

本誌が間違っていれば幸いだが、中央銀行たるものは備えるべきであろう。

<From the Editor> 10月は御用心

今週はちょっと遊んでみました。座談会形式も二段組の誌面も初めての経験です。しかしあくまで架空の座談会。ここ1週間に取材したいろんな意見や情報を、勝手にまとめて紹介してみました。自分で読み返してみて、やっぱりこの『溜池通信』は、純粹な意味の「レポート」ではなくて、ちょっといかがわしい「メディア」<媒体>なんだなあ、とへんに納得してしまいました。

昔、広報室で『トレードピア』の編集を担当していたこともあって、自分は物書きというより編集者が性にあっているように思います。そういえば無自覚に決めたことなのですが、この後記は"From The Editor"という名前で、いつも最後には「編集者敬白」と記しているんですね。そうか、俺は編集者なのか。無意識とは恐ろしい。

ところで先日、『トレードピア』でお世話になった、イラストレーターの種村国夫さんにお目にかかりました。絵の方も有名ですが、予言も競馬も良く当たる快人物で、相変わらずユニークなお話を拝聴しました。

種村氏の予言にいわく、今年はウサギ年である。ウサギが出てくる民話は、『ウサギとカメ』『かちかち山』『因幡の白ウサギ』など、最後のどんでん返しがお約束である。増長して傲慢になった者が、最後に痛いしっぺ返しを食らうのがウサギ年の特色である。現に前回の1987年には、10月にブラックマンデーがあった。今年もそろそろ危険水域に入る。「もう大丈夫」とほっとした頃が危ない、との予言です。

なるほどと思われるご指摘。小渕政権も米国経済も、このところいささか傲慢になっている模様。種村理論によれば、ウサギ年は年末に要注意。"October Surprise"なんて言葉もあることゆえ、皆さん10月は心しましょう。

編集者敬白

- 本レポートの内容は担当者個人の見解に基づいており、日商岩井株式会社の見解を示すものではありません。ご要望、問い合わせ等は下記あてにお願いします。

日商岩井株式会社 業務部 調査チーム 吉崎達彦 TEL:(03)3588-3105 FAX:(03)3588-4832

E-MAIL: yoshizaki.tatsuhiko@nisshoiwai.co.jp